

第3回泉大津市  
市民みんなの「未来の学びの場」を  
考えるワークショップ

2021年12月18日(土)

# 本日の予定

時間	内容
10:00～	開会 ・ワークショップ進行説明
10:00～ 20分程度	事務局からの説明 ・第2回ワークショップの振り返り ・ワークショップとりまとめ「『未来の学びの場』のあり方(案)」 ・本日のテーマのご説明
10:20～ 70分程度	本日の意見交換 【本日のテーマ】 ○「『未来の学びの場』のあり方(案)」について
11:30～ 30分程度	本日の振り返り ・各グループからの発表(1グループ5分程度)
12:00	閉会 ・次回の予定の説明



# 1. 第2回ワークショップの振り返り

市民みんなの「未来の学びの場」を考えるワークショップ “教育施設で何がしたい何ができる”

【当日の参加者】・午前4グループ 25名 ・午後3グループ 15名 計40名

教育施設に対する市民の認知度・関心度を高めるためには

施設を利用してもらうため、満足度を高めるための工夫

## 【情報発信・媒体について】

- ・市の広報紙の魅力を高める必要がある。見やすさや情報量。
- ・公民館のクラブ紹介リーフレットとして配るのであれば、手元に置いておいて、参加したいときに参照できる、手に取りたくなるものとするべき。
- ・学校としては、生徒や保護者に対して、学校を通じた情報発信をもっとやってもらってよいと考えている。
- ・各施設に対して分かりやすく統一感のある愛称等のネーミングを行う。(市民からの親近感を高めることにも繋がるのでは。)

## 【ターゲットについて】

- ・情報発信は、若者向けにはSNS、高齢者は紙媒体、というターゲット別の手段、アプローチが必要ではないか。
- ・子どものうちから、教育施設にどのように慣れ親しんでもらうかという視点も必要である。
- ・アクティブでない、高齢者へのアプローチに課題がある。情報を伝える方法に限られる。アクティブにする、ということが難しい。

## 【施設や活動を知ってもらうきっかけづくり】

- ・きっかけづくりのイベントを実施する。(有名人を呼ぶ。小学校低学年向けのイベントをすることで、親も一緒に来てもらう。など)
- ・クラブ活動の「エキスポ」(見本市)をやりたい。
- ・美術系、文化系を中心に、街なかでの発表の場、目に触れる機会を提供する。

## 【施設に入りやすい環境づくり】

- ・「のぼり」を使うなどして中の活動の様子がわかるようにする。
- ・初見の人の入りやすさには清潔感が必要である。

## 【市としての方針を市民に示す】

- ・認知度をどのように向上させるのか、誰に向けて向上させるのか、市の大きな方針(施設をどうしていくのか)を掲げることも重要。

## 【施設を使いにくくしているルールの改善】

- ・予約時間枠が使いやすい設定になっていない。(細かいコマ割りに改善する。クラブ以外への割当枠を確保する。など)
- ・予約方法の改善が必要。(現状は各施設に行き、台帳を見て空き時間の確認、予約をしなければいけない)
- ・空調が、決まった時期にならないと使えない。
- ・「飲食ができない」という点が不便。飲食で交流が進む側面もある。
- ・施設の実情に合わせた柔軟な取組が出来ないか。(地域からの支援を受けやすくする。など)

## 【求められる場所・空間】

(一般論として)

- ・「サード・プレイス」としての売り込み方をしていくのが良い。(学校でも家でも会社でもない、落ち着ける場所を確保することを考えていくのが良いのでは。)
- ・サロンみたいな場所が欲しい。(居心地がよい、新聞・雑誌が読める)
- ・必ずしも施設・建物である必要はない。例えば、屋外の畑でも良い。(地域交流ゾーンについて ※学校関係者ご意見)
- ・セキュリティ面が確保できれば、もっと地域住民の方等に学校に入り込んでもらってもよい。
- ・学校は生涯学習の機能がフルスペックで揃っている。どんどん使ってもらって良いのではないか。

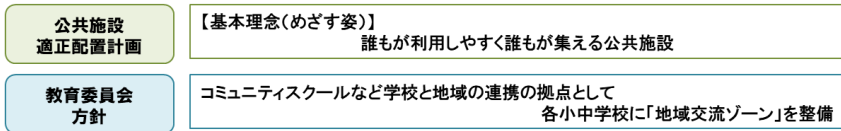
## 【施設の管理運営】

- ・施設の数を増やした場合、管理の手間がかかる点を気にしている。
- ・人材を確保し、組織を作って運営を担ってもらう必要がある。(シルバー人材の活用や、地域人材の活用。など)
- ・地域の方が、学校のカリキュラムをサポートするような関わりがあっても良いのではないか。(※学校関係者ご意見)
- ・施設運営を担う事務局があった上で、改善に取り組める体制とすべき。

# 2. 「『未来の学びの場』のあり方(案)」について

## 市民みんなの「未来の学びの場」を考えるワークショップとりまとめ 「未来の学びの場」のあり方(案)

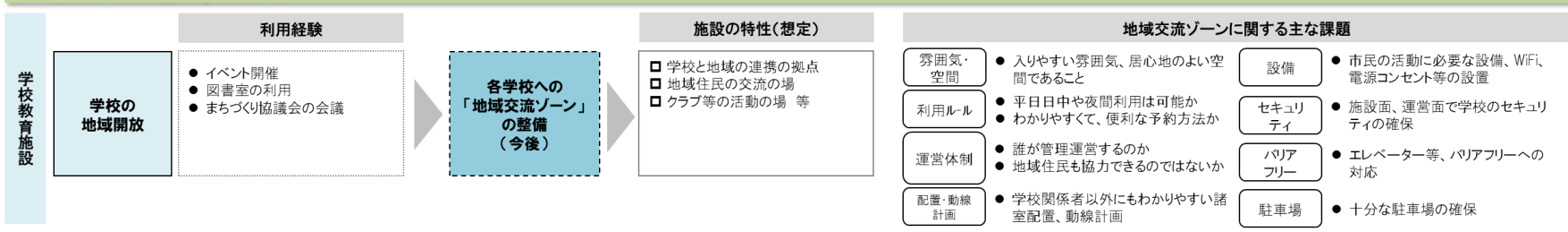
### 背景



### 〔教育施設に係る施策の課題〕

- 計画・方針にあわせて教育施設全体の再編(複合化・多機能化)に取り組み、以下のことをめざします。
- ① より多くの、より多様な市民が利用しやすくなる環境を整備
  - ② 市民ニーズを踏まえ、公共施設のサービスの質を向上
  - ③ 施設の適切な維持管理、効率的な運営を推進し、将来負担を軽減

### 1 現在の「教育施設」について

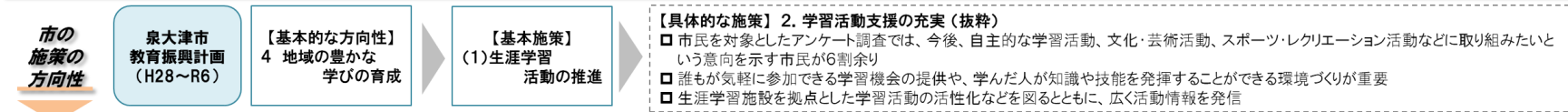


施設	利用経験		施設の特徴	北公民館、南公民館、勤労青少年ホームの現状に関する主な意見(課題等)	
	利用経験	良い点		現状	主な意見(課題等)
北公民館 南公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民によるクラブ活動(文化、芸術、スポーツ活動)</li> <li>市主催の講座への参加</li> <li>公民館祭り等のイベント実施</li> <li>利用者が交流するサロン空間</li> <li>近隣の子供の自習スペース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家から近く気軽に使える</li> <li>高齢者や子供、親同士の交流の場</li> <li>クラブ活動に使える諸室・設備(備品置場、防音仕様等)が備わっている</li> <li>使用料が安い、又は無料で使える</li> <li>参加費の安い市主催の講座がある</li> <li>職員の対応が親切</li> <li>車で交通の便が良い</li> <li>十分な駐車場がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に貸し会議室・貸しスペース</li> <li>地域住民の交流の場</li> <li>登録されたクラブの活動場所</li> <li>市主催の講座の開催場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設後40~50年程度、経過している</li> <li>講堂等広い部屋はクラブ活動での稼働率が高い一方、和室・調理室等稼働率が極端に低い部屋もある</li> <li>交流室等、予約の必要がないスペースやサロンの空間は、利用者からの人気があり、大人にも子供にも利用ニーズがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化が進んでおり、防災面で不安がある</li> <li>バリアフリーに対応できていないことが問題</li> <li>トイレが古く狭い / 水漏れを起こすことがある</li> <li>リノベーションは困難であり、場合によっては建替えが必要</li> <li>WiFi等の設備が不十分</li> <li>予約せずに使えるサロンのような場所は必要</li> <li>会議室等は、大きさが柔軟に変えられると便利</li> </ul>
勤労青少年ホーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民によるクラブ活動(文化、芸術、スポーツ等活動…特に吹奏楽団の練習)</li> <li>会議・打合せ(自治会等)</li> <li>中学校の部活動</li> <li>進路説明等の学校の説明会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加費の安い市主催の講座がある</li> <li>職員への対応が親切</li> <li>車で交通の便が良い</li> <li>十分な駐車場がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に貸し会議室、貸しスペース</li> <li>市吹奏楽団の主な練習場所</li> <li>登録されたクラブの活動場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のうち約8割の人は、過去2年間(コロナ禍より前含む)で1度も利用していない(市民アンケート結果)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者以外には何をしているのかわかりにくい</li> <li>どのようにすれば利用できるかわからない</li> <li>利用している人が決まっています、新たに利用する際にハードルを感じる</li> </ul>
長寿園 自治会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会の会議・打合せ</li> <li>自治会独自のサークル活動</li> <li>(長寿園)親子向けイベント開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家から近い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣住民の憩いの場</li> <li>自治会の活動場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の広報や市のLINE、年1度のクラブ活動紹介冊子で、活動内容を発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者は紙媒体、若者はSNS等、ターゲットにあわせて情報発信が必要</li> <li>イベント等を通じて、まずは経験してもらってもらうこと、来てもらうきっかけが必要</li> </ul>
テクスピア大阪 あすとホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏会や展示会等の発表(市内で限られたホール!)</li> <li>文化・芸術活動の講座へ参加</li> <li>会議・打合せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅から近い</li> <li>建物がきれい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の文化活動等の発表の場</li> <li>ただし…</li> <li>● 料金が高い ● 予約が埋まりがち</li> <li>● ホールが簡易的、大きなイベントは不可</li> <li>● テクスピアのホールの座席は車いす未対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>館長と主事、市が管理運営</li> <li>登録されたクラブの自主組織として「クラブ連絡協議会」があり、クラブ間の様々な調整や、「公民館まつり」の運営を担っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>館長によって、施設利用のルールが変わることがあり戸惑う</li> <li>運営のために自主組織は重要な役割を担っているが、メンバーの高齢化が進み、負担感が増している</li> </ul>
池上曾根 弥生学習館 シーブラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書、本の借受、資料の閲覧</li> <li>子供の自習・学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物・空間がきれい</li> <li>多様な人が様々な目的で利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の読書、学習等の場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日3枠の利用区分</li> <li>利用予約の際は、直接窓口に行って空き状況を確認し、予約する</li> <li>入場料や受講料を徴収するイベントや講座等は、金額がわずかも「営利目的」と判断されて利用できない</li> <li>冷房房の実施期間が決まっている</li> <li>冷房期間:6月1日~9月20日</li> <li>暖房期間:11月20日~3月31日</li> <li>諸室内で飲食はできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用区分(1日3枠)が少ないため予約が取りにくいのではないかと、時間単位で利用できないか</li> <li>空き状況の確認や予約が不便、インターネットでできるようになれば利用しやすい</li> <li>市民に向けた講座を開催したい人が、もっと柔軟に施設を利用できるようになれば、より魅力的なプログラムが増えるのに</li> <li>冷房期間が決まっているので、暑い日であっても冷房を使うことができないのはとても不便</li> <li>飲食ができる交流の場としても使いたい</li> </ul>

# 2. 「『未来の学びの場』のあり方(案)」について

市民みんなの「未来の学びの場」を考えるワークショップとりまとめ 「未来の学びの場」のあり方(案)

## II これからの「未来の学びの場」のあり方について



※第3回ワークショップでの意見交換のテーマ

	ワークショップ等での「あり方」に関する主な意見	骨太の方針(仮説) ※	具体的な取組例(案) ※	取り組むにあたっての課題 ※
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座等の魅力的なプログラム提供、利用者調整、情報発信が行える運営体制</li> <li>● 施設利用者、地域住民も、過度な負担にならない範囲で参加・協力できる仕組み</li> </ul>	<p><b>市民参加型の運営体制を構築</b></p> <p>利用者ニーズに柔軟に対応できる、親しまれる学びの場とするために、市民参加型の運営体制を構築する(“話せばわかる”公共施設をめざす)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 運営スタッフに、市民がボランティアとして参加する</li> <li>□ 利用者意見を運営方法・施設のあり方に反映させるための「利用者会議」を定期開催する</li> </ul>	
機能・サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 誰もが利用しやすい生涯学習活動の場の提供</li> <li>● 市民講座等、魅力的なプログラム提供</li> <li>● 施設利用者の活動を支援する機能 →新規の活動、既存の活動を支援する</li> <li>● 施設利用者間の交流を支援する機能</li> </ul>	<p><b>市民が「先生」として活躍できる学びの場</b></p> <p>スキルや経験を持つ、ポテンシャルのある市民が、プログラムを自発的に提供できる機会と場所を提供する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 講座を開催したい人が、柔軟に施設を利用できるようにし、多様な「市民参画型プログラム」を提供する</li> <li>□ 新しく活動を始めたい人が相談できる窓口(コンシェルジュ機能)を設ける</li> </ul>	
利用ルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な利用者に使いやすい予約枠(時間単位等)の設定</li> <li>● 誰でも空き時間が把握しやすく、予約しやすいシステム等の導入</li> <li>● 「営利目的」の柔軟な判断</li> <li>● 柔軟な冷暖房の使用</li> <li>● 飲食可能な個室・スペースの設定</li> </ul>	<p><b>時代のニーズに沿ったルール</b></p> <p>それぞれの時代にあった、公共施設のサービスの質が向上するルールを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 利用者ニーズにあわないルールを変更する ✓ 予約時間枠を増やす/柔軟に変更する</li> <li>□ 冷暖房の使用可能期間の設定の見直し</li> <li>□ DX(デジタルトランスフォーメーション)時代に即した手段を導入する ✓ ネットでの空き状況を確認し、予約ができるようにする</li> <li>□ 「利用者会議」をふまえて、ルールを柔軟に見直す(施設の長に任せばなしにしない)</li> <li>□ 「市民参画型プログラム」を開催できるように、受講料がわずかであれば「営利目的」としない運用を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用ルールの設定や変更にあたって、議会議決や他施設との調整等が必要なものがある</li> <li>● 既存の利用者にも大きな不便や混乱が生じないよう配慮が必要</li> <li>● 施設の運営方式とあわせて導入検討を行う必要あり</li> </ul>
情報発信・ブランディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 紙媒体、デジタル媒体等、ターゲットに応じた多様な手段での情報発信</li> <li>● 市広報の情報発信を魅力的にみせる工夫</li> <li>● クラブ活動等の利用者による、市民が体験できるイベントの開催</li> <li>● 各施設に対する、わかりやすく統一感のある愛称等のネーミング</li> <li>● 各施設のロゴ等の、統一感のあるデザイン</li> </ul>	<p><b>面白さとお得感のある情報発信に!</b></p> <p>「知ってもらい、関心を持ってもらう・実際に来てもらう」ための魅力的なコンテンツを企画、発信する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 市内のクラブ活動等が集結する等、「やってみよう」をやってみる[「仮称」おづみんエキスポ]で、新たな市民に知ってもらい、来てもらう、体験してもらう</li> <li>□ 施設の愛称を「●●」とする</li> <li>□ 施設を利用するとポイントを付与する仕組みを導入する ⇒施設を利用すると、ステータスが上がっていく(例)講座を主催し、講師をするとポイント付与率UP等</li> <li>□ センスの良い市広報に、もっと掲載してもらう</li> </ul>	
建物・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全性の確保等への対応のため公民館の建替え</li> <li>● クラブ活動等の平日昼間の施設利用ニーズへ対応</li> <li>● 入りやすい、明るい雰囲気・空間づくり</li> <li>● 予約しなくても使える、サードプレイス(第三の居場所)としてのサロンの空間</li> <li>● わかりやすい個室配置、動線計画</li> <li>● 便利な1階への利用頻度の高い個室の配置</li> <li>● 市民の生涯学習活動に必要な設備の充実</li> <li>● 利用者が使えやすいWiFi・電源コンセントの設置</li> <li>● 学校のセキュリティの確保(地域交流ゾーン)</li> </ul>	<p><b>地域交流ゾーンと連携し、ハブとなる1つの新しい拠点施設を整備する</b></p> <p>地域交流ゾーンと新たな拠点施設を整備することで、市民の身近な活動場所を確保しつつ、老朽化等の課題のある公民館、勤労青少年ホームを集約化し、利用しやすい個室構成・設備、安全性の確保、バリアフリー対応、管理運営の効率化を実現する</p> <p>★期待する効果 今の利用者の利用環境が改善されつつ、新たな利用者が増え、市民の生涯学習活動が促進される</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 南・北公民館、勤労青少年ホームを1か所に集約し、新しい拠点施設を整備する(サロン空間は必須)</li> <li>□ 公民館等の機能の切れ目ない整備スケジュールとする</li> <li>□ 地域交流ゾーンの整備に先駆けて、今の学校施設を利用して、地域交流ゾーン機能を稼働させる(社会実験的に試行)</li> <li>□ 既存の施設を使う間は、DIYが好きな市民や、子供たちが集まって、施設の修理や家具作り等を行い、居心地の良い空間を作れるようにする(場合によっては、職人やアーティスト等が支援をする)</li> </ul>	
立地・アクセシビリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 十分な台数の駐車場、駐輪場の確保</li> </ul>	<p><b>車で行ける新しい拠点施設 歩いて行ける地域交流ゾーン</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 新しい拠点施設は、車でアクセスしやすい場所に整備する</li> <li>□ 基本的には、徒歩で行ける距離にある。地域交流ゾーン(各小中学校)だが、駐車場・駐輪場も十分に確保する</li> </ul>	

### 3. 本日の意見交換のテーマ

---

## テーマ

# 「『未来の学びの場』のあり方(案)」について

- 「骨太の方針(仮説)」について
- 「具体的な取組例(案)」について
- 「取り組むにあたっての課題」について

